

第7回これからの北海道立近代美術館検討会議

日時：令和4年（2022年）12月16日（金）10：00～

場所：Web会議システムZOOM

次 第

1 開会

2 議事

- (1) 目指す姿（ビジョン、ミッション、コンセプト案）
- (2) 施設整備方法

3 閉会

■ 配付資料

- ・ 資料1 私たちが目指すこと
- ・ 資料2 施設整備方法

議 事

第7回これからの北海道立近代美術館検討会議 出席者名簿

○ 構成員

所 属 ・ 職	氏 名
株式会社haku 代表取締役	菊地 辰徳 <small>まくち たつのり</small>
北海道大学 名誉教授	北村 清彦 <small>きたむら きよひこ</small>
北海道教育大学釧路校 教授	佐々木 宰 <small>ささき つかさ</small>
北海道大学大学院文学研究院 教授	佐々木 亨 <small>ささき とおる</small>
前札幌芸術の森美術館 館長	佐藤 友哉 <small>さとう ともよし</small>

(敬称略、五十音順)

○ 道教委

所 属	職	氏 名
教育庁	生涯学習推進局長 (兼)道立近代美術館担当課長	山上 和弘 <small>やまがみ かずひろ</small>
教育庁生涯学習推進局 文化財・博物館課	課 長	高見 里佳 <small>たかみ りか</small>
	課長補佐	遠藤 新理 <small>えんどう しんり</small>
	係 長	福士兼太郎 <small>ふくし けんたろう</small>
	主 事	伊藤 拓朗 <small>いとう たくろう</small>
	主 事	宮下 直之 <small>みやした なおゆき</small>
北海道立近代美術館	副 館 長	松田 俊也 <small>まつだ としや</small>
	学芸副館長	中村 聖司 <small>なかむら せいじ</small>
	総務企画部長	豊村 洋 <small>とよむら ひろし</small>
	学芸部長	五十嵐聡美 <small>いがらしさとみ</small>
	学芸統括官	土岐美由紀 <small>とき みゆき</small>
	総務企画課長	今村ちぐさ <small>いまむら</small>

はじめに

北海道立近代美術館（以下「近代美術館」という、）は、地域性と国際性を併せ持つ総合的近代美術館の構想の下に、昭和52年（1977年）に開館しました。以来、「地域に開かれ、地域の美術文化を拓く」ことを基本理念に掲げて、収集・保存、展示、教育普及、調査研究という美術館ならではの活動を着実に積み重ねることにより、本道の美術文化の振興を図ってきており、開館以来の総観覧者数は、1,200万人を超えています。

令和4年（2022年）7月21日には開館45周年を迎えましたが、この間、社会・環境問題はより複雑化し、人口減少・少子高齢化が進み、人々の意識やライフスタイルも大きく変化してきております。

私たちは、こうした変化を直視し、これまで、当館に寄せられてきた期待や役割を踏まえ、来館者をはじめ多くの方々から、様々なご意見をお聞きし、改めて「美術館に何が出来るのか」、「美術館は何をすべきなのか」をじっくりと考え、対話を重ね、この度、「私たちが目指すこと」として、私たちの考えをまとめました。

今後は、近代美術館が「目指すこと」をより多くの道民の皆様と共有し、その実現に向けて、駆け足にならず、しっかりと、一緒に歩んでいきたいと考えています。

経緯

令和4年（2022年）1月、道教委では、施設の老朽化が著しい近代美術館について、施設整備方針の検討が必要なことから、これまでの美術館活動を検証するとともに、今後、近代美術館に求められる役割や今後のあり方について有識者から意見を聴取するため、「これからの北海道立近代美術館検討会議」（以下「検討会議」）の開催を決定し、同年2月1日には、第1回検討会議が開催されました。

3月1日に行われた第2回検討会議において、近代美術館の今後を考える上では、美術館のビジョンやミッション（以下「ミッション等」という。）の議論を進めていくべきではないかといった有識者の方々からのご意見などを踏まえ、近代美術館が主体となって、ミッション等を検討していくこととしました。

近代美術館では、前年に、将来の美術館のあり方について、「役割」と「活動」という視点から検討を進めるために、道立の美術館・芸術館、文学館に所属する学芸員に、近代美術館の将来像について、意見の提出を依頼するとともに、学芸員によるチームを立ち上げ、美術館の将来像を検討しており、そうした取組を基礎としながら、美術館に勤務する事務職員や非常勤職員の方々からも意見を聞きながらミッション案をまとめてきました。

また、作家や美術館のボランティア、高校の美術部の生徒の皆さんなど様々なの方々から、近代美術館の「これまでの活動に対する評価」や「これから美術館に期待すること」を直接お聞きしました。

さらに、9月には、来館者の方々、WEBによるアンケート調査を実施し、延べ877名の方々から回答をいただきました。

私たちは、ミッション等を策定する中で、いただいた全てのご意見に耳を傾け、改めて、私たちの美術館のあり方について、議論を重ね、有識者の方々からもご意見をいただきながら、ここに、「私たちが目指すこと」としてまとめました。

私たちが目指すこと

ビジョン | 私たちがめざすもの

北海道立近代美術館は、

アート of 普遍的価値を継承・発展、発信し、誰もがその豊かさを享受することで、
多様な人々が互いを受け入れ、活かし合いながら、新たな創造へと向かう活力あふれる社会

の実現を目指します。

ミッション | 私たちの使命、役割

- 北海道の美術文化の中核として、道民に信頼され、親しまれるとともに、誰もが楽しみ、学び、やすらぎを感じ、人生の豊かさを見いだすことができる場所となります。
- アートを介した新たな発見や感動体験の提供により、人々の生涯を通じ、創造力と豊かな感性を育み、刺激し続けていきます。
- 様々な人々や団体と協働し、地域のアートの活性化に貢献するとともに、多様性やサステイナブルが求められるこれからの社会づくりに向け、美術館としての活動を積み重ねながら、道民とともに歩んでいきます。

コンセプト | 私たちが取り組んでいくこと

ハーモニー

くつろぎの空間としての魅力を向上させるとともに、個性の異なる誰もが、多彩なアートに親しむことができるよう、「ユニバーサルデザイン」の考え方をソフト・ハードの両面に取り入れます。また、都心の緑の中にある美術館として、環境に最大限配慮した活動を行いながら、人とアートをつなぎ、文化と自然の調和のシンボルとなります。

コレクション

コレクションは美術館活動の原点であり、すべての人々に向けて開かれた文化と教育の資源です。収集方針に基づきながら、貴重な作品を系統的に収集し、展示やラーニング・プログラムなどに幅広く活用します。また、デジタル・データ化を進めながら、適切な取り扱いと環境のもとで大切に守り、次世代へと引き継ぎます。

リサーチ

多岐にわたるリサーチ（調査研究）活動では、各分野における専門性を深めつつ、分野を横断し、総合することによって、アートの価値をさらに引き出し、美術館活動に幅広く活かします。また、誰もが北海道の美術について深く、多角的に学ぶことができるように、資料のアーカイブ化などに取り組めます。

コラボレーション

アーティスト、ボランティア、学校、企業など様々な人々や団体と持続的な協働体制を構築し、多彩な展覧会を開催するほか、個人の成長・年齢に応じた美術の楽しみや学びを提供し、地域の美術文化、美術教育を活性化していきます。

キッズ

子どもが自ら楽しみ、大人の手を引き何度も訪れたいくなる美術館となるような展示、ラーニング・プログラム、ワークショップを企画・実施し、生涯にわたるアートとの関わりの礎を築きます。

コンセプト実現のための手法や機能例

	ソフト Soft	ハード Hard					
		① 老朽化している施設・設備の更新	② 収蔵庫や什器、資料の保管場所など狭隘化の解消	③ 時代の進展にあわせたデジタル技術の活用	④ 誰もが気軽に利用でき、学ぶことができる開かれた場所	⑤ 多くの人が訪れる、居心地がよく、アクセスしやすい空間	⑥ 都心の貴重な緑を活かした環境整備
ハイモニー	<ul style="list-style-type: none"> ● 魅力にあふれた多彩な展覧会の開催 ● 環境への影響を最大限配慮した活動 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 日常的な点検・確認、メンテナンス、更新が容易な施設設備 ➢ 適切な温湿度管理、災害対策が施された展示室 		<ul style="list-style-type: none"> ➢ デジタル技術を活用した鑑賞方法の基盤確立 ➢ 館内Wi-Fiを活用したイベントのライブ配信とアーカイブ化 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 施設設備のバリアフリー化 ➢ 表示等のユニバーサルデザイン化 ➢ 案内表示の多言語化 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ くつろぎにあふれた魅力ある空間（カフェ、レストラン、ミュージアムショップ） ➢ 障がいのある方が自由に安心して利用できる駐車スペース 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 周辺の緑や環境と調和した持続可能性に配慮した施設・設備 ➢ 地域の自然との連続性を感じられるエントランスや内装
コレクション	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会の期待や美術界の動向を考慮した収集方針の検討 ● コレクションの意義も含めた情報発信 ● 系統的な収集と適切な保存 ● インターネット、出版等による発信力の強化 ● 計画的な作品の修復 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 適切な温湿度管理、災害対策が施された保存環境 ➢ 作品の状態を確認しやすい保管庫 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 将来の収蔵数を見込んだ作品保管スペース ➢ 梱包箱の一時保管場所、什器類の保管場所 ➢ 安全に作品の搬出入を行える荷解室 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ コレクションデータベースの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 展示替休館中でも鑑賞可能なコレクションの常設展示スペース 		

	ソフト Soft	ハード Hard					
		① 老朽化している施設・設備の更新	② 収蔵庫や什器、資料の保管場所など狭隘化の解消	③ 時代の進展にあわせたデジタル技術の活用	④ 誰もが気軽に利用できる、学ぶことができる開かれた場所	⑤ 多くの方が訪れる、居心地がよく、アクセスしやすい空間	⑥ 都心の貴重な緑を活かした環境整備
リサーチ	<ul style="list-style-type: none"> ● 展示、コレクション活用に関連した調査研究の充実 ● インターネット、出版等による調査研究成果の社会還元を強化・充実 ● 学芸員の調査研究活動充実に向けた環境の整備・充実 ● 外部研究者との連携強化 ● 利用者に対するレファレンス機能の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 学芸員の調査研究活動充実に向けた環境【再掲】 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 学芸員の調査研究や作品・展覧会等に関する資料の保管場所 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 道内の美術館やギャラリーの最新情報にアクセスできる特設ページ 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 美術図書室と情報コーナーの充実 ➢ 北海道美術史に関わる基礎資料を利用できるアーカイブ構築 		
コラボレーション	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の作家と共に、北海道の美術の現況を紹介する展示の企画、実施 ● 障がい者の鑑賞機会充実に向けた団体等との連携強化 ● 音楽、舞踊、スイーツ、医療その他多様なジャンルとの協働活動 ● 企業・団体との新しい協働方式による展覧会の開催 ● 他館と連携したアートシーンの活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 多様なジャンルの活動や発表に対応できる多機能なホール 		<ul style="list-style-type: none"> ➢ 誰もが鑑賞を楽しめるデジタル技術 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 幅広い使用に開かれた多機能ルーム ➢ 美術館に常時関わる道民のための活動スペース 		
キッズ	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校教育との連携による発達段階に応じた美術鑑賞によるラーニング・プログラムの開発 ● 子どもも大人と一緒に楽しめるワークショップの実施 ● 子どもの視点に立った展示の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 様々なラーニング・プログラムに対応した施設設備 		<ul style="list-style-type: none"> ➢ オンラインによる美術学習を可能とするデジタル基盤 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 子ども向け展示スペース 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 学校等の団体にも対応可能な駐車スペース 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 屋外彫刻等を活用した親子で楽しめるスペース ➢ 緑を活かした環境学習スペース

1 サウンディング型市場調査のまとめ（民間事業者からのアイデア）

区 分	主な提案内容、理由
<p>現施設の改修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現施設の建築価値や都市景観への配慮 ○ 環境負荷を抑えるための既存ストック（現施設）の活用 ○ 大規模改修や収蔵庫増築が必要 ○ 地下駐車場の整備
<p>現敷地での改築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 居住区域は美術館建築地として手狭 ○ 環境負荷を抑えるための既存ストック（知事公邸等）を活用 ○ 改築に併せて現代美術館・環境系博物館を併設 ○ 駐車場の整備 ○ ホテル・レストラン等民間施設との複合化
<p>知事公邸等が所在する区域（居住区域）への移転新築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現収蔵品のスムーズな移転が可能 ○ 休館期間の短縮化が可能 ○ 跡地活用の収入により事業効率性が高い ○ 宿泊施設、カフェ・ショップ等の併設 ○ 駐車場の整備

- **近美の建物・空間が創り出す、広く開放的で落ち着きのある雰囲気が好き（10）**
 - ・ゆったりとした空間が好き。
 - ・建物の雰囲気、中の雰囲気の落ち着くような、ストレスが和らぐ感じが好き。
 - ・明るく解放感ある建物。
- **近美の建物、敷地の趣のある雰囲気が好き（12）**
 - ・建物の雰囲気がすごく好き。コンクリートをうまく長く使えたら。
 - ・建物、庭園自体がモダンアートでカッコイイ！
 - ・いい建物！耐震OKなら残した方がいいと思う。
- **近美の建物の2階からの景色・眺め・周囲との一体感が好き（9）**
 - ・2階から見える景色が好き！ずっとこの場所にあってほしいです。
 - ・今の近美の建物がすごく好きです。特に2階からの眺め。建て直しではなく、この建物を大切にしたい。
- **自然が豊かで四季のうつろいを感じられ、エゾリスにも出会えるところが好き（20）**
 - ・自然豊かなところ。
 - ・エゾリスが駆けまわっている風景。
 - ・四季のうつろいが楽しめて、ゆったり昼食ができる中庭が好きです。
- **自然に囲まれていることで静かで落ち着き、居心地よくリフレッシュできるところが好き（20）**
 - ・周りに緑がたくさんあり、憩いの場所であること。
 - ・緑の中で静かにゆったりとできるのがよい。
- **自然や周辺環境と調和している風景が好き（11）**
 - ・森の中にたたずむ感じが好きです。
 - ・周囲の緑との調和がすばらしい。
- **都心部にありながら、みどり豊かで自然を大切にしているところが好き（26）**
 - ・街中にありながら自然とアートを感じることができること。
 - ・都心にあって緑に囲まれた落ち着いた場所にあること。
 - ・緑に囲まれた美術館が都心にあるところ。
- **駅から近くてアクセスしやすく、気軽に利用できるところが好き（22）**
 - ・市内中心部の利便性の良さ。
 - ・地下鉄からのアクセスが良い所。
 - ・交通の便、今の場所が一番良い。
- **都心部にありながら静かで落ち着いた雰囲気が好き（5）**
 - ・都会の喧噪の中の静寂が好き。
 - ・都心でも静かな所。

- **知事公館、三岸好太郎美術館と一体的に文化・芸術を発信するエリアになったらいいな！ (17)**
 - ・知事公館の間の市道を車両通行止めにして、一体的な文化ゾーンになってほしい。
 - ・知事公館エリアへのデザインセンター設立も含めた総合的な再編を望みます。 ・知事公館と連携した施設になればうれしい。
- **世界にも誇れるような、観光資源にもなりうる美術館になってくれるといいな！ (14)**
 - ・観光名所になりうるSDGsを大切にした建築物。 ・世界に誇れるような美しい美術館をつくってほしいと思います。
 - ・北海道を代表する中核美術館として、地域振興など幅広い役割に応えられるような施設、運営を目指して欲しい。
- **展示エリアや資料室がもっと広く充実するといいな！ (21)**
 - ・展示フロアがもっと広がって欲しい。 ・資料室の充実と拡充を期待します。
 - ・展示室のリノベーション（作品が引き立つような色調、質感） ・収蔵庫の大幅な拡張を図り、極力自前の収蔵品を拡充すべき。
- **今の近美の建物の良いところを残して、大事に使ってくれるといいな！ (23)**
 - ・今の建物の外観は残して欲しい。 ・近美の建物に愛着を感じているので、残してほしい！
 - ・子どもの頃からこの建物のイメージで、なくすことは想像できない。収蔵庫を公邸のところに作れば良い。
- **近美の場所はそのままに、施設が生まれ変わるといいな！ (9)**
 - ・美術館を他に移さないで新築してください。 ・この場所から移転してはいけない。この場所はとても貴重。
- **近美の建物自体がアートとして魅力あるものになったらいいな！ (12)**
 - ・建物自体が美術品になって欲しい。 ・格好いい建物を建てて、北海道にも文化があるということを道外に示して欲しい。
- **誰もが使いやすいトイレやエレベータ、休憩できる椅子の充実などユニバーサルデザインで施設が生まれ変わるといいな！ (29)**
 - ・誰でも使いやすい施設（トイレ、エレベータ等）。 ・常設展示室にエレベータがあると便利。
 - ・お年寄りになると階段がづらいので配慮が必要。 ・ベンチの増設。待ち合わせ、余韻にひたる。
- **都心部の中の豊かな今ある自然を大切に、守り、残してくれるといいな！ (24)**
 - ・緑豊かなところはそのままあってほしい。 ・都心の中の緑のオアシスであり続けて。 ・知事公館含め、緑地を多く残して欲しい。
- **建物と自然が一体的に、みどりに囲まれた美術館だといいな！ (25)**
 - ・緑に囲まれた建物が良いです。できればこのまま残してほしいです。 ・雪国なので開放感がある建物にして。
 - ・建物をもし建て替えるプランがあるならば、太陽の恵みを受けられる明るい建物で！

今後の進め方

- 既存施設を活用する方法（改修）、現在の敷地内で建て替える方法（改築）、知事公邸等が所在する区域へ移転する方法（新築）が考えられる。
- どの方法も様々な可能性や課題があり、美術館活動への影響や経済性、環境性などが異なることから、建築関係法規等との整合を確認するとともに、それぞれのメリット・デメリットを整理し、比較することが必要。
- 整備方法の比較に当たっては、合理性・客観性を確保する観点から、今後、各分野の専門家や有識者などから御意見を伺い、整理・検討を進める。
- 整備方法に対して多様な御意見があることから、比較内容については、美術館を利用する方や近隣にお住まいの方など、道民の皆様からも御意見を伺いながら、丁寧に検討を進めることが必要。

《比較項目の例》

区 分	美術館活動				経済性			環境性			その他	総合評価
	使命の実現度	建築意匠	休館期間		イニシャルコスト	ランニングコスト		生物多様性への配慮	脱炭素化への貢献度			
改修+増築												
現地改築												
移転新築												